

1 本校教育目標

夢を抱き、信頼し、笑顔あふれる学校

『 S T A R西泊！ V e r 2 ～ つなげよう 星座のように～ 』

[重点目標及び学習面の実践事項]

(1) 心身ともに健やかでたくましく、互いを認め合える人間関係を構築させる。

- ① 基本的生活習慣の確立
- ② 豊かな心の育成
- ③ 望ましい人間関係の醸成

(2) 基礎・基本の学力の定着と確かな学力の向上を図る。

- ① 基礎学力の定着
- ② 生徒指導及び特別支援教育の充実
- ③ キャリア教育の推進

2 本校の実態

生徒の実態として、読んで理解する・聴いて理解することに課題が見られる。読んで理解するという面では、問題文の意味を読み間違えることで問題に正解できないことや、そもそも読むのをあきらめて無回答とする生徒がいる。聴いて理解するという面では、授業中の指示や問いかけの内容を正しく理解できず、指示とは違う動きをしたり、問いに答えられなかったりする生徒が見られる。

3 校内研修主題と学力向上プラン

(1) 校内研修主題

学習の基盤となる言語能力の育成
～ 読んでわかる・聴いてわかるを目指して ～

(2) 共通実践

- ① 定期的なリーディングスキルテストの結果を基に生徒の実態を把握し、授業を構想、実践する。
- ② 各教科の特質に応じた言語活動を授業に取り入れる。
- ③ 年3回の全員参観型研究授業と研究協議の実施による授業改善を行う。
- ④ クロームブックを活用して家庭学習の充実を図る。また、別室、不登校生徒等に対する学習支援（リモート授業・体制構築）を行う。
- ⑤ 自分ログや家庭学習ノートへの取り組みをNトレとして全校で共通実践する。

(3) 学校重点目標

- ① 校内研修の充実を図り、授業改善及び指導方法の工夫を行う。
- ② 各教科の特質を基に、言語活動の充実を図る。

(4) 学力向上プラン

学力向上

共通実践を取り入れた各教科の授業

- 生徒が主体的に学習に取り組むことを目指した授業改善を行う。
- 本時で達成されるべき目標を明らかにする（学習指導要領に沿って）。
- めあてを提示する（生徒が「学びたい」と思う魅力あるめあてに！できれば生徒の言葉で）。
- 本時のまとめと振り返りを行う（目標、めあてとの整合性！）。
- 生徒に伝わる指示や発問の検討をする。
- 特別支援、配慮を要する生徒の特性の理解共有と対応を検討する。
- 定期的にリーディングスキルテストを実施し、結果の分析と共有を行い、全職員で生徒の実態を把握し、授業構想や実践に活用する。

教師の指導力向上

- 「あじさいスタンダード」及び「ゆめあこ」の活用
- 小学校との連携
- 校内研修の充実（実践の共有）
- 全員参観型研究授業と授業研究会の実施
- 長崎市協働型研修を活用し、他校への授業参観や研究協議参加の推奨

4 全国、県学力調査等の分析による今後の課題と改善策

	全国平均に比べ正答率が低かった問題	改 善 策
国 語	「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える」問題や「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを書く」問題の正答率が低く、無解答率も高い。出題趣旨をつかめずに、解答をしていることがわかった。	授業の中で、音読や資料の見方を重点に置いた指導を行い、文章の内容や資料等を正確に読み取る力を身に付けさせ、読み取ったことを基に自分の考えを書く活動に取り組ませる。また、語彙を豊かにするために、辞書を用いた意味調べ等の学習も授業で取り組む。
数 学	「事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる問題」「具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる問題」において正答率が低く、無解答率も高い結果となった。説明、証明問題を解くにあたって見通しを立てること、作図の意味の理解、図を見て角どうしの関係を判断することに課題が見られた。	ペア学習、グループ学習を通して、比較・検討する活動を取り入れ、多様な表現方法に触れさせる。 説明問題に対して、「①文字で表す→②関係を式で表す→③理由を文章で説明する」という手順を繰り返し指導する。 「分かっている角」「求めたい角」「その根拠となる角」を関連付けて説明する活動を充実させる。 無解答率の改善に向け、部分的な記述でもよいことを指導し、まずは考えを書き始める習慣を身に付けさせる。角の関係を書き込むなど途中段階の思考が見えるような表現方法を指導する。
英 語	与えられた情報に基づいて英文を書く問題や学校生活で行うこと、学校行事で行いたいことなど自分の考えとその理由、説明を書く問題の正解率が低かった。書く問題は時間不足のためか、無解答も多かった。	日頃から、ペア活動などで自分の考えを既習の簡単な英語で表現できるよう練習していく。そして自分の考えを整理、表現する意識を持たせる。 表現の問題は、具体的な状況を想定し、「誰に何のために」伝えるのかを意識しながら話し、それを相手に伝わるように、文章で書く練習に取り組む。